

出雲商工会議所管内 業種別景況（令和7年10月～12月期）

《全 業 種》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和6年10～12月）と比べた 今期（令和7年10～12月）の状況				前期（令和7年7～9月）と比べた 今期（令和7年10～12月）の状況				今期（令和7年10～12月）と比べた 来期（令和8年1～3月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売 上 高	43.1	29.3	27.6	15.5	51.7	31.0	17.2	34.5	17.2	37.9	44.8	△ 27.6
2 採 算	25.0	55.4	19.6	5.4	25.0	62.5	12.5	12.5	20.4	46.3	33.3	△ 13.0
3 仕 入 単 価	67.2	29.3	3.4	63.8	53.4	43.1	3.4	50.0	46.6	51.7	1.7	44.8
4 従 業 員 数					1.9	92.6	5.6	△ 3.7	3.7	92.6	3.7	0.0
5 資 金 繰 り					13.0	70.4	16.7	△ 3.7	14.8	70.4	14.8	0.0

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		28.6	50.0	21.4		7.1		37.5	44.6		17.9	19.6		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売 上 ・ 受 注 の 減 少	33.3	10.0	8.3	51.7	8 設 備 店 舗 の 狭 小 ・ 老 朽 化	5.0	6.7	10.0	21.7
2 大 企 業 進 出 に よ る 競 争 激 化	0.0	1.7	1.7	3.3	9 取 引 条 件 の 悪 化	0.0	1.7	1.7	3.3
3 製 品 ・ 商 品 単 価 の 下 落	1.7	0.0	0.0	1.7	10 事 業 資 金 の 確 保 難	3.3	10.0	3.3	16.7
4 原 材 料 高 及 び 不 足	23.3	16.7	13.3	53.3	11 需 要 の 停 滞	3.3	13.3	5.0	21.7
5 在 庫 製 品 ・ 商 品 の 過 剰	1.7	0.0	1.7	3.3	12 円 相 場 に 伴 う 経 営 へ の 影 響 ・ 価 格 転 嫁	5.0	8.3	15.0	28.3
6 人 手 不 足	3.3	5.0	6.7	15.0	13 そ の 他	1.7	3.3	1.7	6.7
7 人 件 費 の 増 加	11.7	5.0	8.3	25.0	無 回 答	6.7	18.3	23.3	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

## 《 製 造 業 》

### 1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和6年10～12月）と比べた 今期（令和7年10～12月）の状況				前期（令和7年7～9月）と比べた 今期（令和7年10～12月）の状況				今期（令和7年10～12月）と比べた 来期（令和8年1～3月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売 上 高	22.2	22.2	55.6	△ 33.3	44.4	33.3	22.2	22.2	33.3	33.3	33.3	0.0
2 採 算	25.0	62.5	12.5	12.5	37.5	37.5	25.0	12.5	37.5	50.0	12.5	25.0
3 仕 入 単 価	88.9	11.1	0.0	88.9	77.8	22.2	0.0	77.8	55.6	44.4	0.0	55.6
4 従 業 員 数					0.0	77.8	22.2	△ 22.2	11.1	77.8	11.1	0.0
5 資 金 繰 り					37.5	50.0	12.5	25.0	25.0	75.0	0.0	25.0

注) ↑ 増加・上昇・好転    — 不変    ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

### 今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		33.3	44.4	22.2		11.1		33.3	33.3		33.3	0.0		0.0

### 2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売 上 ・ 受 注 の 減 少	55.6	11.1	0.0	66.7	8 設 備 店 舗 の 狭 小 ・ 老 朽 化	0.0	0.0	33.3	33.3
2 大 企 業 進 出 に よ る 競 争 激 化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取 引 条 件 の 悪 化	0.0	0.0	11.1	11.1
3 製 品 ・ 商 品 単 価 の 下 落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事 業 資 金 の 確 保 難	0.0	22.2	0.0	22.2
4 原 材 料 高 及 び 不 足	11.1	33.3	11.1	55.6	11 需 要 の 停 滞	0.0	22.2	11.1	33.3
5 在 庫 製 品 ・ 商 品 の 過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円 相 場 に 伴 う 経 営 へ の 影 響 、 価 格 転 嫁	11.1	0.0	22.2	33.3
6 人 手 不 足	11.1	0.0	0.0	11.1	13 そ の 他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人 件 費 の 増 加	11.1	11.1	11.1	33.3	無 回 答	0.0	0.0	0.0	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

### 3、業界内のトピック、今後の課題・方針など（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 仕入の見直しが上手くいかない。賃上げもあるので、粗利の取れるよう直売比率を高めようと考えている。12月は通販が好調だった。今年は自店舗で直売を始めたい。
- ・ 例年あるリピート案件が無くなる傾向は変わらず、今期は今期で無くなったものがある。業界の縮小は続いており、今後もその傾向は変わらないと考える。  
AIツールを活用した業務効率化や新規事業の促進に力を入れるとともに、新商品サービスの事業展開に力を入れる。

## 《建設業》

### 1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和6年10～12月）と比べた 今期（令和7年10～12月）の状況				前期（令和7年7～9月）と比べた 今期（令和7年10～12月）の状況				今期（令和7年10～12月）と比べた 来期（令和8年1～3月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	62.5	25.0	12.5	50.0	50.0	37.5	12.5	37.5	12.5	50.0	37.5	△ 25.0
2 採算	37.5	50.0	12.5	25.0	25.0	62.5	12.5	12.5	37.5	37.5	25.0	12.5
3 仕入単価	75.0	25.0	0.0	75.0	37.5	62.5	0.0	37.5	37.5	62.5	0.0	37.5
4 従業員数	/	/	/	/	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資金繰り	/	/	/	/	25.0	75.0	0.0	25.0	25.0	75.0	0.0	25.0

注) ↑ 増加・上昇・好転    — 不変    ↓ 減少・低下・悪化

注) D・I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

### 今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		28.6	42.9	28.6		0.0		42.9	57.1		0.0	42.9		0.0

### 2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	50.0	12.5	0.0	62.5	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	0.0	0.0	0.0
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	12.5	12.5	9 取引条件の悪化	0.0	12.5	0.0	12.5
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	12.5	12.5	25.0
4 原材料高及び不足	12.5	12.5	12.5	37.5	11 需要の停滞	0.0	12.5	12.5	25.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響、価格転嫁	12.5	0.0	0.0	12.5
6 人手不足	12.5	0.0	12.5	25.0	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	12.5	12.5	12.5	37.5	無回答	0.0	25.0	25.0	—

注) 「全体」= (1位+2位+3位を選んだ回答数) / 全回答数

### 3、業界内のトピック、今後の課題・方針など（調査対象事業所からの意見等）

- ・住宅業界は、ハウスメーカーや地方の大手ビルダーの独壇場となっており、公共工事も減少の一途をたどっている。リフォーム工事など細かい工事を数多くこなせるような体制づくりと営業活動が大切であると考え。昨年4月の建築基準法改正の影響大。
- ・資材の値上げと人材の高齢化、そして働き方改革と賃上げなどや、世界経済の影響も受け、明るい兆しの見えない建設業界のように感じる。
- ・消費税への価格転嫁は相変わらず出てない。
- ・職人（大工）の手間賃単価の上昇。

## 《卸 ・ 小 売 業》

### 1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期 (令和6年10~12月) と比べた 今期 (令和7年10~12月) の状況				前期 (令和7年7~9月) と比べた 今期 (令和7年10~12月) の状況				今期 (令和7年10~12月) と比べた 来期 (令和8年1~3月) の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売 上 高	52.9	5.9	41.2	11.8	58.8	17.6	23.5	35.3	17.6	35.3	47.1	△ 29.4
2 採 算	18.8	56.3	25.0	△ 6.3	12.5	81.3	6.3	6.3	18.8	43.8	37.5	△ 18.8
3 仕 入 単 価	52.9	35.3	11.8	41.2	52.9	35.3	11.8	41.2	47.1	47.1	5.9	41.2
4 従 業 員 数	/	/	/	/	0.0	100.0	0.0	0.0	6.3	93.8	0.0	6.3
5 資 金 繰 り	/	/	/	/	6.3	81.3	12.5	△ 6.3	12.5	81.3	6.3	6.3

注) ↑ 増加・上昇・好転    — 不変    ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

### 今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		18.8	56.3	25.0		-6.3		31.3	56.3		12.5	18.8		0.0

### 2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売 上 ・ 受 注 の 減 少	44.4	5.6	0.0	50.0	8 設 備 店 舗 の 狭 小 ・ 老 朽 化	11.1	0.0	0.0	11.1
2 大 企 業 進 出 に よ る 競 争 激 化	0.0	5.6	0.0	5.6	9 取 引 条 件 の 悪 化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製 品 ・ 商 品 単 価 の 下 落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事 業 資 金 の 確 保 難	0.0	11.1	5.6	16.7
4 原 材 料 高 及 び 不 足	16.7	16.7	22.2	55.6	11 需 要 の 停 滞	5.6	11.1	0.0	16.7
5 在 庫 製 品 ・ 商 品 の 過 剰	5.6	0.0	5.6	11.1	12 円 相 場 に 伴 う 経 営 へ の 影 響 、 価 格 転 嫁	0.0	16.7	33.3	50.0
6 人 手 不 足	0.0	5.6	5.6	11.1	13 そ の 他	0.0	11.1	5.6	16.7
7 人 件 費 の 増 加	11.1	5.6	5.6	22.2	無 回 答	5.6	11.1	16.7	—

注) 「全体」= (1位+2位+3位を選んだ回答数) / 全回答数

### 3、業界内のトピック、今後の課題・方針など (調査対象事業所からの意見等)

- ・ 価格転嫁出来る商品はしている。『高くても売れる店づくり』をしないとイケない。
- ・ 売上を高めていく事が重要。経費のコントロールは今期も改善案あるので、価格も見直し、サービスを充実し、楽しく仕事ができるよう頑張りたい。
- ・ 値上がり幅の多い商品は、良い材料を工夫して使い続けることで、他店の差別化をすることが出来る。物価高の時代だからこそ、しっかりとした商品を作り、信頼をつかむ。
- ・ 最低賃金が上昇し人件費が増加しており収益は悪化傾向。価格転嫁が追いついていない。

## 《サービス業》

### 1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和6年10～12月）と比べた 今期（令和7年10～12月）の状況				前期（令和7年7～9月）と比べた 今期（令和7年10～12月）の状況				今期（令和7年10～12月）と比べた 来期（令和8年1～3月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	25.0	66.7	8.3	16.7	33.3	58.3	8.3	25.0	25.0	41.7	33.3	△ 8.3
2 採算	8.3	83.3	8.3	0.0	8.3	83.3	8.3	0.0	16.7	66.7	16.7	0.0
3 仕入単価	41.7	58.3	0.0	41.7	25.0	75.0	0.0	25.0	33.3	66.7	0.0	33.3
4 従業員数					0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	90.9	9.1	△ 9.1
5 資金繰り					8.3	75.0	16.7	△ 8.3	16.7	66.7	16.7	0.0

注) ↑ 増加・上昇・好転    — 不変    ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

### 今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		25.0	58.3	16.7		8.3		50.0	33.3		16.7	33.3		0.0

### 2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	15.4	7.7	7.7	30.8	8 設備店舗の狭小・老朽化	7.7	7.7	7.7	23.1
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	7.7	0.0	0.0	7.7	10 事業資金の確保難	7.7	0.0	0.0	7.7
4 原材料高及び不足	15.4	7.7	0.0	23.1	11 需要の停滞	0.0	15.4	0.0	15.4
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響、価格転嫁	0.0	7.7	7.7	15.4
6 人手不足	0.0	0.0	7.7	7.7	13 その他	7.7	0.0	0.0	7.7
7 人件費の増加	15.4	0.0	0.0	15.4	無回答	23.1	53.8	69.2	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

### 3、業界内のトピック、今後の課題・方針など（調査対象事業所からの意見等）

- ・新しい商材を入れてサービスを充実させる。旧サービスは単価を上げづらいが、新サービスは適正価格設定している。
- ・事業拡大のために、早めに新しい人材を確保しておきたい。仕入価格は上がっているが、価格転嫁は出来ている。
- ・3年前に一度値上げし、その後上げていないので、今年4月頃に一部メニューの値上げを行う予定。それでも売上・利益が思うように伸びなければ、専門家への相談を検討したい。
- ・賃金上昇を価格転嫁するが、顧客の利用減少があると思われる。

## 《 飲 食 業 》

### 1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和6年10～12月）と比べた 今期（令和7年10～12月）の状況				前期（令和7年7～9月）と比べた 今期（令和7年10～12月）の状況				今期（令和7年10～12月）と比べた 来期（令和8年1～3月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売 上 高	50.0	33.3	16.7	33.3	66.7	16.7	16.7	50.0	0.0	33.3	66.7	△ 66.7
2 採 算	41.7	25.0	33.3	8.3	50.0	33.3	16.7	33.3	0.0	30.0	70.0	△ 70.0
3 仕 入 単 価	91.7	8.3	0.0	91.7	75.0	25.0	0.0	75.0	58.3	41.7	0.0	58.3
4 従 業 員 数					9.1	81.8	9.1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資 金 繰 り					0.0	60.0	40.0	△ 40.0	0.0	50.0	50.0	△ 50.0

注) ↑ 増加・上昇・過剰・好転    — 不変    ↓ 減少・低下・不足・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

### 今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		41.7	41.7	16.7		25.0		33.3	41.7		25.0	8.3		0.0

### 2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売 上 ・ 受 注 の 減 少	8.3	16.7	33.3	58.3	8 設 備 店 舗 の 狭 小 ・ 老 朽 化	0.0	25.0	16.7	41.7
2 大 企 業 進 出 に よ る 競 争 激 化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取 引 条 件 の 悪 化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製 品 ・ 商 品 単 価 の 下 落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事 業 資 金 の 確 保 難	8.3	8.3	0.0	16.7
4 原 材 料 高 及 び 不 足	58.3	16.7	16.7	91.7	11 需 要 の 停 滞	8.3	8.3	8.3	25.0
5 在 庫 製 品 ・ 商 品 の 過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円 相 場 に 伴 う 経 営 へ の 影 響 、 価 格 転 嫁	8.3	8.3	0.0	16.7
6 人 手 不 足	0.0	16.7	8.3	25.0	13 そ の 他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人 件 費 の 増 加	8.3	0.0	16.7	25.0	無 回 答	0.0	0.0	0.0	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

### 3、業界内のトピック、今後の課題・方針など（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 人件費の増加に売上がついていない。今後、資金確保も難しくなっていくことが考えられる。
- ・ 食品の消費税0円が決まるかどうか、心配が増えます。原材料高のため、今年から1割ほど価格改定。苦渋の決断でした。
- ・ 全ての面で苦しい状況の中、原価率をこまめに確認したり、仕入先の変更、そういう小さなことをしっかりやっていきたい。そして、いつも満足してもらえようリピート率を上げるために、料理、サービスを向上させ、とにかくどんどん売上を上げていきたい。